

Microsoft 365 × サイボウズ Garoon

連携資料



目次

P2

はじめに

P3～4

Garoonビジネスプロダクトマネージャー・インタビュー

Microsoft 365とGaroonを併用する企業が増加中

P5

Microsoft 365 - Garoon

連携製品・プラグイン

P6

Microsoft 365 - Garoon

JavaScriptカスタマイズ

P7

Microsoft 365 - Garoon

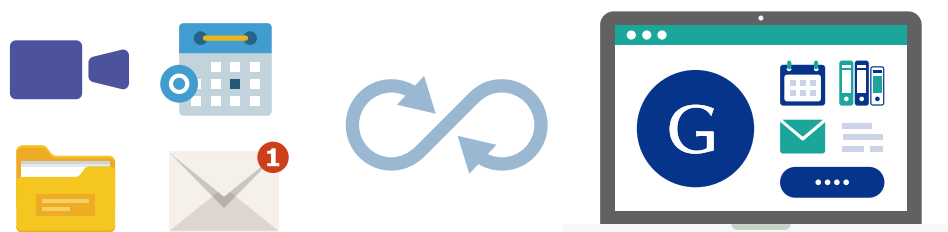
アカウント連携・シングルサインオン

P8～10

導入事例 - 株式会社明電舎

**社員約8000人の集合知活用に向けた
情報共有基盤構築への挑戦。
14年ぶりのグループウェア刷新のポイントは
“カスタマイズ性”**

はじめに



現在多くの企業で利用されているMicrosoft 365は、
文書作成や表計算、Web会議、チャットなど幅広い機能を搭載しています。

しかし多機能なMicrosoft 365を使いながら、
グループウェアやワークフローツールなど、
別のITツールを併用する企業も存在します。

この資料では、その中でもMicrosoft 365と
グループウェア「Garoon」の併用についてご紹介。

なぜ併用されるのか、連携させて使うことはできるのか。
具体的な連携製品や導入事例のご紹介を交えて解説します。



約2社に1社

Microsoft 365とGaroonを併用する企業が増加中

企業での導入率は90%を超えるグループウェア。^{※1} 主な用途は、スケジューラー、掲示板、ワークフロー、各種システムへのリンク集などがあります。最近ではチャット・Web会議、ファイル共有などに便利なMicrosoft 365が導入率を伸ばしており、サイボウズとアイティメディアの調査によると72.2%がMicrosoft 365を利用しています。^{※2}

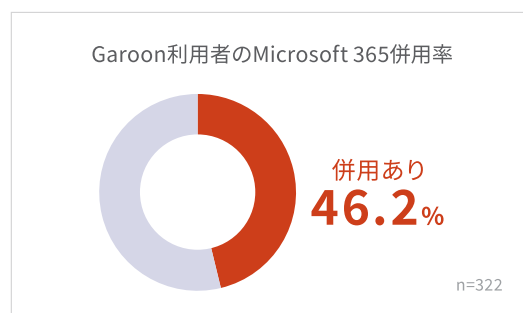
同じく情報共有ツールであるサイボウズ Garoonは、一見Microsoft 365と似たような製品だと考えられがちです。しかし実際はGaroonユーザーの46.2%がMicrosoft 365と併用しています。^{※3} 一見、ダブルコストにも見えるツール併用について、その理由をGaroonビジネスプロダクトマネージャー（2022年 取材当時）の池田陽介に聞いてみました。

併用率46.2%。 合理性と生産性を考えた、ITツールの選び方

GaroonとMicrosoft 365を 併用するユーザーが増えているそうですね。

弊社の調査ではGaroonユーザーの46.2%がMicrosoft 365と併用しています。^{※3}

2019年の併用率は43.1%^{※4} で、ここ数年は一定の併用需要が存在し続けています。



どちらもグループウェアだと思うのですが、なぜ併用しているのでしょうか？

Microsoft 365とGaroonが併用される理由は大きくわけて2つあります。1つめは、グループウェアの基本機能をカバーするためです。Microsoft 365で掲示板やリンク集、ワークフローや議事録共有を行いたい場合、SharePointでの追加開発が必要です。対して、Garoonにはグループウェア機能として必要なこれらのアプリケーションが標準搭載されています。要件定義、開発、メンテナンス等のコストを考えると、Garoonのような別サービスを組み合わせて利用するほうが合理的です。

実際、サイボウズとアイティメディアの調査では、Microsoft 365を使っていると回答した288名のうち90%以上がワークフローや全社通達などにおいて、他ツールを併用していることが分かりました。別ツールで行われている業務のランキングを見ると、ワークフロー、文書管理、掲示板・全社通達、社内ポータル・社内サイトの運用の順に多いです。^{※2}



ただ複数サービスを併用する場合は、データ同期やシングルサインオンによるユーザー管理の一元化が重要になります。Garoonであればプラグインやカスタマイズによる連携が可能なので、Microsoft 365の連携先として選ばれていると考えています。

2つめは、グループウェアの場合、全社員が利用できる分かりやすさが必要だからです。グループウェアは全社の日々の情報共有に使うITツールなので、一部署でしか使わない専門システムよりも「ITリテラシーや年齢を問わず誰でも最低限使えること」が重要です。Microsoft 365のような外資製品の操作は難しいと感じる社員がいる場合、Garoonのような国産グループウェアを利用いただくケースが多いです。お客様の中には、Office系アプリケーションやWeb会議ツールが必要なデスクワーカーにのみMicrosoft 365のライセンスを配布し、工場など現場を含む全社の情報共有ではGaroonを使うというケースもあります。

グループウェアはオンライン上の仮想オフィスへと進化

○ 情報共有以外の課題で、グループウェアの果たす役割はなんですか？

コロナ禍でのテレワークの浸透により、グループウェアの役割は従来の情報共有に留まらなくなっています。以前は、オフィスに出社すれば、同じ空間を共有しながら仕事をする同僚達がいました。しかし、今後はひとつの場所に集まって仕事をする機会が減っていきます。リアルなオフィスに代わる場所が必要です。

そこでグループウェアの出番です。従来のオフィシャルな情報共有だけでなく、同僚との雑談や周囲から漏れ聞こえてくる雑音も含めた「バーチャルなオフィス」としての役割をグループウェアが担っていくべきだと考えています。TeamsでのWeb会議やチャットのような同期型コミュニケーションと、メールやサイボウズ製品が得意とする非同期型のコミュニケーション。それぞれの良さを活かしながらこれらを使い分けていくことが今後の企業内コミュニケーションの鍵になるでしょう。

池田陽介 (サイボウズ株式会社 ビジネスマーケティング本部 Garoonビジネスプロダクトマネージャー)

※1 キーマンズネット『グループウェアの利用状況(2020年)／前編』(2020年4～5月、n=139)より (<https://kn.itmedia.co.jp/kn/articles/2005/21/news005.html>)

※2 サイボウズ／アイティメディア『Microsoft 365とGoogle Workspaceについてのアンケート』(2022年1月、n=399) より

※3 2022年 Garoonユーザーアンケート (2022年7月、n=322) より ※4 2019年Garoonユーザーアンケート (2019年8月、n=181) より

連携製品・プラグイン

サイボウズのパートナー企業がMicrosoft 365とGaroon間の連携ソリューションを提供しています。

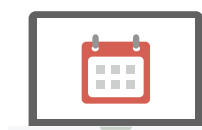
Microsoft 365 / Garoon 双方向にスケジュールを連携します

連携製品を使ってMicrosoft 365とGaroonの双方向同期が可能です。Microsoft 365とGaroonの両方を使う必要がある場合でも、二重登録・更新の手間を省き、ダブルブッキングのリスクを低減します。詳しくは、各社様の製品ページをご覧ください。

Microsoft 365



Garoon



ガル助 ver.2

ガル助 ver.2

株式会社ノベルワークス

<https://www.novelworks.jp/garsche2/>

TeamsなどのWeb会議と連携できるソリューションもご用意

Garoonのスケジュールの操作のみで、TeamsのWeb会議の予定登録・変更・参加が可能です。Garoonのユーザーではない外部のWeb会議参加者も、予定の画面上でメールアドレスを入力して招待できます。詳しくは各社様の製品ページをご覧ください。

Teams



登録 / 変更

Garoon



ガル助 ver.2

ガル助 ver.2

株式会社ノベルワークス

<https://www.novelworks.jp/garsche2/>

CROSSLink 365
Teams 連携

CROSSLink 365 Teams連携

クロス・ヘッド株式会社

https://www.crosshead.co.jp/solution/garoon_teams/

JavaScriptカスタマイズ

GaroonはAPIを公開しているため、ご自身やサイボウズ オフィシャル パートナーでのJavaScriptカスタマイズが可能。より自由度の高い連携を実現します。

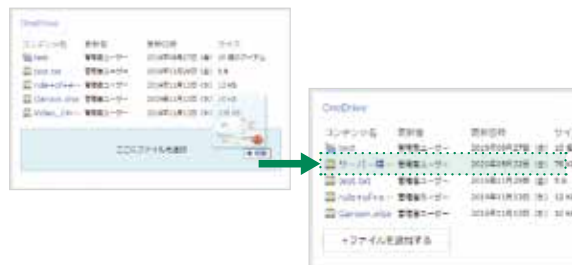
GaroonとOutlookの両方を参照して 予定を調整する

GaroonとOutlookを併用している場合でも、Garoonから1クリックで両方の予定を参照して空き時間を探せます。



GaroonのポータルでOneDriveの ファイル一覧を表示&ファイルを追加する

GaroonのポータルにOneDriveのポートレットを設置。OneDrive内のファイル一覧を参照することはもちろん、Garoonポートレット上でドラッグ&ドロップによるファイル追加も可能です。



Garoon通知一覧でOutlookの 新着メール通知を受け取る

メーラーにOutlookを利用している場合、新着メールもGaroonの内通知もまとめてGaroonの通知一覧で確認できます。



GaroonのポータルでOutlookの 新着メール数を確認する

メーラーにOutlookを利用している方向け。Garoonのポータル内で新着メールの件数を確認し、ポータルからワンクリックでOutlook画面に遷移でき、2つのサービス間の移動がスムーズに行なえます。



Microsoft 365

Microsoft 365など他製品との連携カスタマイズサンプルはGaroon製品サイトでご紹介しています。

<https://garoon.cybozu.co.jp/function/expand/?page=cus&customizecat=customize7>

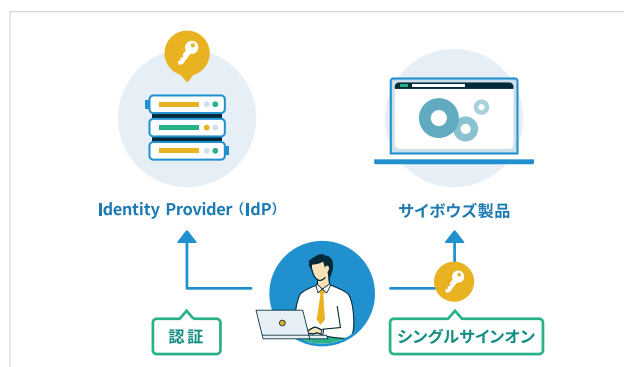


アカウント連携・シングルサインオン

Microsoft Entra IDとの連携により、ユーザーの利便性と管理負荷の軽減を両立した、安全なアカウント運用を実現できます。

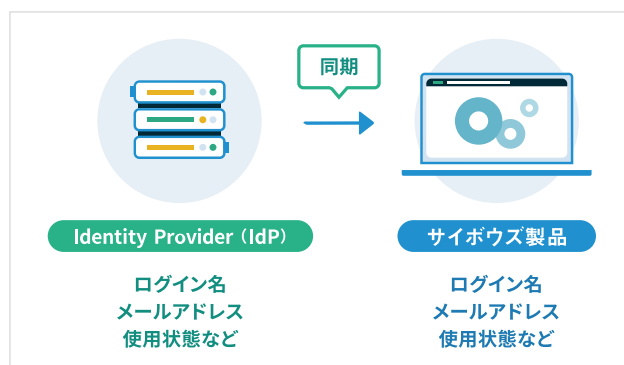
SAMLを使用した シングルサインオン

SAML認証機能を標準搭載しており、構築済みのIdentity Provider (IdP) とシングルサインオンを設定できます。



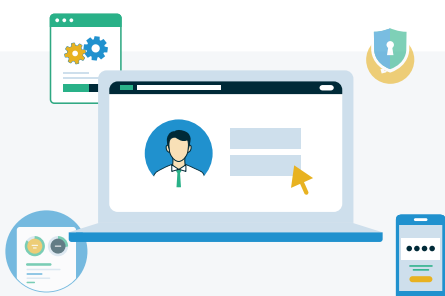
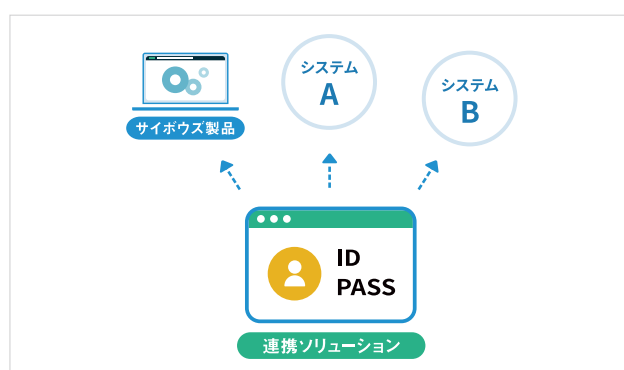
プロビジョニング機能による アカウント情報の同期

SCIMによるユーザープロビジョニングを標準搭載し、構築済みのIdentity Provider (IdP) で管理しているアカウント情報を同期できます。



連携ソリューションを 利用したアカウント連携

連携ソリューションを利用したシングルサインオンやアカウント連携が可能です。



アカウント連携・シングルサインオンに関する詳細はサイボウズのクラウドサービスに関するサイトでご紹介しています。

<https://www.cybozu.com/jp/account/>



社員約8000人の集合知活用に向けた 情報共有基盤構築への挑戦。 14年ぶりのグループウェア刷新の ポイントは“カスタマイズ性”



株式会社明電舎

情報システム部 左から、小林氏、楠田氏、天野氏

社会インフラを支える重電機器、水処理システム、産業システム機器など幅広い事業を手がける株式会社 明電舎(以下、明電舎)では、2017年に社内のグループウェアを、サイボウズのGaroonとkintoneへと刷新。明電グループ約8000人の情報共有・ノウハウ基盤の整備に挑んでいる。14年間使った旧グループウェアからの移行プロジェクトでは、Garoonの連携カスタマイズ性の高さに注目した。

導入の決め手は「他システム連携」と 「導入までのスピード感」

2016年にグループウェアの移行を検討し始めた明電舎。当初からクラウド型のサービスを使うことを考えていた。製品選定にあたり、Garoonを含めたいくつかのサービスを比較した。明電舎では、2016年にMicrosoftのExchangeとOutlookの使用を開始していたため、グループウェア機能をOffice365に集約する案も当初はあったという。

「SharePointをカスタマイズして以前と同じようなグループウェアを開発する、という方法も検討しましたが、**それだと結局自分たちで作らないといけない**。使い勝手や操作性を旧グループウェアと同じレベルに持っていくためにはかなりの工数がかかりますし、メンテナンスコストや管理の複雑化など、これまでと同じ課題が生まれてしまいます。今までスクラッチのグループウェアを運用してきた教訓として、**自分たちでガリガリ作るのはもうやめよう**、と判断しました」
(天野氏)

スクラッチ開発も可能な体制がありながら、SharePointをカスタマイズして利用することは避け、既に完成されたグループウェアであるGaroonを利用することを選択した。

「まず早く入れたい、というのがありました。私たちが1から機能を考えるのではなく、**グループウェアの機能についてのノウハウは外から買って来てしまおう、そして早く活用しよう**と思っていました。サイボウズさんはこれまで多くの導入実績がありますので、グループウェアのノウハウについては信頼できました」(天野氏)

現在はOffice365とクラウド版Garoonを併用している。機能面で導入のポイントとなったのはポータル、そしてOffice365を含めた他システムとの連携性だった。

「以前のグループウェアでは、すべての社内システムへの入り口をポータルに集約していたため、それと同様のことができた必要がありました。また、当然既に利用を開始していた**Office365やそのほかのシステムとの連携なども必要**でした」(天野氏)

GaroonにはREST API・JS API・カスタマイズ機能などが備わっているため他システム連携やカスタマイズがしやすい環境が整っている。またOutlookとGaroonのスケジュールを同期させるツールなど、パートナー企業が提供する連携製品が充実していることも評価のポイントとなったという。

「例えば連携ツールを使えば**OutlookとGaroonのスケジュールを同期することもできます。そのようなツールがすでにある**、というのが良かったですね。スケジュールや掲示板、ファイル管理などについても事前に検証し、旧グループウェアの操作性を損なうことなく導入できそうだと判断しました」(天野氏)

より使いやすくするために、カスタマイズを実装

他システムで運用しているワークフローとGaroonとの連携や、kintoneで開発した秘書システムとGaroonとの連携なども実装している。

「ワークフローは別のシステムを使っていますが、**承認依頼はGaroonのメッセージにリマインドするようにしています**」(楠田氏)

GaroonとkintoneにはREST APIが搭載されているため、複数のシステムをまたがったデータ連携がしやすい環境が整っている。グループ合わせて約8000人の規模になると、多数の業務システムを併用しているケースがほとんどだ。情報の整理や活用を考えるとあちこちで利用している社内システムを集約

る場所が必要になってくる。明電舎の場合はGaroonがその役割を担っており、「つながるグループウェア」の強みを発揮していると言える。

組織を横断した情報共有、 ノウハウ基盤を作っていきたい

以前のグループウェアでは同じ部門のメンバーのスケジュールしか共有できなかったため、他部門とスケジュール調整は手間だったのですが、Garoonではどの社員の状況もがわかるので調整しやすくなりました。このような小さな改善を積み重ねれば、雑務にかかる時間を減らし、本来やるべき仕事に集中することができます。

今は非公開で登録しているので予定の有無しかわかりませんが、公開で登録すれば予定の内容まで見られます。内容を見ながら調整する方がよりスムーズになるでしょう。抵抗がある社員もいるかもしれませんが、いずれは全員公開での運用も検討したいと考えています」(天野氏)

組織を超えて情報をオープンにすることで、今まで起きていたコミュニケーションロスが防げることを天野氏は期待している。組織や会社を超え、明電グループが一体となってフラットな情報共有を行う場を作ることを目指すという。グループ約8000人の集合知の活用に向けて、Garoon・kintoneのさらなる活用を進めていく予定だ。

取材日：2019年2月1日

詳しい事例は、Garoon の製品ホームページでご覧いただけます。

<https://garoon.cybozu.co.jp/mtcontents/cases/meidensha/>



Garoonが気になったら
まずはセミナーへ



他製品との比較や、移行の進め方などのテーマでセミナーを開催しています。ぜひご参加ください。

▼ 詳しくはこちら

<https://garoon.cybozu.co.jp/lp/seminar/newlist/>

グループウェアに
関する資料を見たい



Garoonの機能説明や移行プロジェクトの進め方などの資料を豊富にご用意しています。

▼ 詳しくはこちら

<https://garoon.cybozu.co.jp/contents/>

Garoonの操作を
試したい



お客様専用の
環境をご用意



デモデータ入りで
手軽に体験

▼ 詳しくはこちら

<https://garoon.cybozu.co.jp/trial/>

サイボウズに
直接相談したい



サイボウズの導入相談窓口へお問い合わせください。機能の詳細説明、デモの依頼、ライセンスのご相談など幅広く承ります。

▼ 詳しくはこちら

<https://garoon.cybozu.co.jp/consult/>



製品に関するお問い合わせ、お試し申込みは、以下のホームページで

<https://garoon.cybozu.co.jp/>

※サイボウズ、Cybozu、及びサイボウズのロゴマークはサイボウズ株式会社の登録商標です。

※記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。

また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。

個別の商標・著作物に関する注記については、こちらをご参照ください。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/trademark/>

お問い合わせ先